

ARTBAY TOKYO ART FESTIVAL 2022



P9 フォトリリー Meet the NEW SCALE

アートを巡ると、先着で“オーバースケールトートバッグ”がもらえます！

【対象アート】 マップ上の赤い○の作品 Artwork A1 A2 A3 A4 Program P7 Public art 1 5 6 10

【トートバッグ受け渡し会場】 乃村工芸社本社入口付近 ※なくなり次第終了

対象の9つのアートのうち
3つのアートを巡る

3つのアートすべてを
#artbayfes2022
をつけてSNSに投稿し、
受け渡し会場のスタッフに見せる



※SNS投稿(Twitter・instagram)が難しい場合は3つのアートの写真をスタッフにご提示ください

Artist/Collaborator

レアンドロ・エルリッヒ Leandro Erlich

フェノスアイレスをベースに国際的に活動する現代アーティスト。日本でも数多くの作品が紹介されているが、2017年に森美術館で開催された個展は様々な世代の観客を集める人気のある展覧会となった。

吉添 裕人 Hiroto Yoshizoe

東京をベースに活動する空間ディレクター/デザイナー。自然風景や現象などのプリミティブな要素からインスピレーションを受け制作を行う。「PIXEL」'hymn」をはじめとする発表作品で日本国内外での受賞歴を持つ。

NPOアート・コミュニケーション推進機構(PARC)

東京都美術館と東京藝術大学の共催事業においてアート・コミュニケータの任期を終えた有志の任意団体が基盤。人びとの心の豊かさを育むアートを紹介する対話や創作・表現の場を社会に広げるため活動している。

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

スタッフ12名(視覚障害者7名、聴覚者5名)により、全国の美術館や学校で目の見える人、見えない人が言葉を介して「みること」を考える鑑賞プログラムを企画運営。2020年以降は主にオンラインを通して活動。

後藤 映則 Akinori Goto

アーティスト。1984年岐阜県生まれ。原初的なメディアや素材から、現代的なテクノロジーまで、さまざまな手法を用いて、動きや時間、そしてそこから立ち現れる生命感を主題に据えた作品を制作している。

小島 聖 Hijiri Kojima

近年、映像作品に出演する一方、舞台役者としての評価も高く、話題の演出家の舞台に多数出演し、新たな魅力を発揮している。また著書に「野生のペリージャム」がある。

イロハネ

東京藝術大学で生まれた「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト。こどもも大人も、障がいの有無を超えて誰と取り組める創作・表現の場をつくることを目的とした活動を行う。

LovePiano*

ピアノをもっと身近に感じてほしい。そして楽しんでほしい。そんな想いで始まった、誰でも自由に弾けるヤマハのストリートピアノプロジェクト。協力：(株)ヤマハミュージックジャパン

ウルトラスタジオ ULTRA STUDIO

向山裕二、上野有里紗、笹田浩志からなる建築コレクティブ。2013年に結成。日本とヨーロッパで経験を積み、2018年より東京をベースに設計活動を開始。都市文化を批評的にとらえなおしつつ、建築的介入を創り出す。

平松 麻 Asa Hiramatsu

油彩画をメインに展覧会での作品発表を軸に活動する。自身の体内に実在する景色を絵画にし、「雲」をモチーフに据えた心象風景を描く。雑誌・書籍・新聞などの挿画や執筆も手がける。

時代屋

浅草で初めて人力車を走らせた人力車のバイオニア。観光地浅草の活性化へ貢献。歴史の伝承と地域文化遺産の保護・保存への協力、人力車専用のスロープ「バリアフリーキヤスーション」の開発も行う。

JR 東日本 東京感動線

JR 東日本によるプロジェクト。山手線を起点に沿線の多様な個性を引き出し、駅、まち、人、それらの点を線にして面へとつなぎ、魅力的な出会い、感動体験ができる、個性的で心豊かな都市生活空間「東京感動線」を創造。

高橋 信雅 Nobumasa Takahashi

染沢デザイン研究所卒業。東京と鬼ヶ島を拠点に国内外で活動しているアーティスト。線画による表現は、日本では「洋」を海外では「和」を感じさせる独自の世界観を生み出している。

小熊 千佳子 Chikako Oguma

アートディレクター/グラフィックデザイナー。グラフィックデザインを軸に幅広く活動する。国内外のポスター展に招待参加多数。海外美術館にて作品収蔵。出版活動 YOU ARE HERE 主宰。

分身ロボット OriHime

カメラ・マイク・スピーカーが搭載され、インターネットを通して操作する分身ロボット「OriHime」。生活環境や身体障害などによる移動の制約を克服し、その場にいるようなコミュニケーションを実現できる。

乃村工芸社

あらゆる分野における空間の総合プロデュース企業として、創業から130年にわたり培ってきた総合力を活かし、社会課題の解決につながる、フィジカルとバーチャルを融合させた空間価値の提供で、人びとに喜びと感動を届けている。

Schedule

	9/16 (金)	9/17 (土)	9/18 (日)	9/19 (月・祝)	9/20 (火)	9/21 (水)	9/22 (木)	9/23 (金・祝)	9/24 (土)	9/25 (日)
アートワーク	A1 THE PRINT - 痕跡				期間全日 (10:00-19:00)					
	A2 Heading				期間全日 (10:00-20:00)					
	A3 Territory Gone Wild 野生のテリトリー				期間全日 (10:00-19:00)					
	A4 臨海副都心ユニバース				期間全日 (9:00-17:00)					
インスタレーション	P1 City Echo								18:00-20:00	*雨天順延
	P2 おもいつきの声と色				WS2回 10:00-12:00 14:00-16:00		"声"の展示			
ワークショップ	P3 パブリックアート x トートバッグ				全2回 11:00-12:30 14:00-15:30			全2回 11:00-12:30 14:00-15:30	全2回 11:00-12:30 14:00-15:30	全2回 11:00-12:30 14:00-15:30
	P4 ART JINRIKISHA		10:00-12:30							
試乗体験	P5-1 分身ロボット OriHimeとめぐるツアー	11:00-12:00					11:00-12:00			
	P5-2 ベビーと一緒にめぐるツアー					全4回 11:00~/12:00~ 14:00~/15:00~			全4回 11:00~/12:00~ 14:00~/15:00~	
アート鑑賞ツアー	P5-3 見えない人も見える人も一緒にめぐるツアー							全2回 10:00-12:30 14:30-17:00		
	P6 SOUND OF YOU				期間全日 (10:00-19:00) *16日(金)のみ12:00開始					
ARアート体験	P7 TOKYO STATION AR ART PROJECT revival for ARTBAY TOKYO				期間全日 (10:00-19:00)					
プロジェクションマッピング	P8-1 東京ビッグサイト	18:30-19:00								18:30-19:00
	P8-2 SYNAPSE -街をつくるものがたり-				18:30頃-21:00頃	*17日(土)・18日(日)・25日(日)のみ20:00頃終了				
フォトリリー	P9 Meet the NEW SCALE				期間全日 (10:00-19:00) (トートバッグお渡し場所:乃村工芸社本社/なくなり次第終了)					
オンラインコンテンツ	イベント会期中、アート作品展示の様子を動画でご紹介します。詳細はウェブサイトをご覧ください。									

お問い合わせ：ARTBAY TOKYO アートフェスティバル2022事務局 info@artbayfes2022.com

主催：アートプロジェクト実行委員会
東京都港湾局、(株)東京臨海ホールディングス、(一社)東京臨海副都心まちづくり協議会、東京港埠頭(株)、(株)東京ビッグサイト、日本科学未来館
アートアドバイザー：(公財)彫刻の森芸術文化財団
企画・運営：(株)乃村工芸社
運営事務局：ARTBAY TOKYOアートフェスティバル2022事務局

協賛・協力 (順不同)

ARTBAY TOKYO アートフェスティバル2022 メインビジュアル

イベントのテーマ「NEW SCALE」は、アートのかや想像力を通じてこれまでにない視点を見出し、新しい価値観を都市の中に築いていくことを意図しています。その象徴として、現実では実現不可能な形「トロンプイユ」(フランス語で「目を騙す、錯覚を起こさせる」の意。転じて「だまし絵」)をモチーフに、カラフルなグラデーションには臨海副都心エリアに存在する海・植物・太陽など自然物の魅力、さまざまな人が混在する多様性の意を込めています。



ARTBAY TOKYO ART FESTIVAL 2022

2022.9.16(fri) - 25(sun)

臨海副都心エリアが、多彩なアートで染まる10日間

レアンドロ・エルリッヒ 後藤 映則 ULTRA STUDIO 高橋 信雅 吉添 裕人

臨海副都心エリア シンボルプロムナード公園内
 花の広場・石と光の広場 (東京都江東区有明3-7) 夢の広場 (東京都江東区青海1-3) 東京国際クルーズターミナル (東京都江東区青海二丁目地先) (株)乃村工芸社本社 他 (東京都港区台場2-3-4)

ウェブサイト: <https://www.artbayfes2022.com/> 公式 SNS: Twitter @artbaytokyo / instagram @artbayfes2022



NEW SCALE

ARTBAY TOKYO ART FESTIVAL 2022

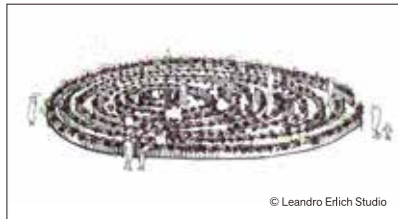
どこまでも広がる空と海をのぞむ、臨海副都心。かつて海だったこの場所は、人びとの創造力によって生まれ、未来へ向かう試みの場であり続けています。この地の歩み、今、そして未来をつないでいくために、このエリアで初めてとなるアートフェスティバルを開催します。2022年のテーマは「NEW SCALE」。これまでに見たことのない風景を、アーティストとともに、ここを訪れる一人ひとりの想像力でつくり上げていきます。臨海副都心を大きな舞台につくられる作品を通じて、想像し、共有し、語り合う。一連の体験のなかで一人ひとりの「NEW SCALE-世界を見る新しいものさし-」が浮かび上がります。

● Artwork アート作品展示 ● Program プログラム ● Public art パブリックアート ● Photo Rally フォトリリー対象作品

Artwork

A1 インスタレーション THE PRINT- 痕跡

レアンドロ・エルリッヒ



すべて人工的につくられた地盤と景観に囲まれる都市、お台場。過去の名も知れぬ多くの先人の英知、ひらめきと努力の結晶で、現代の都市の多くは成り立っています。今回制作される作品のモチーフは「指紋」。それは「個」のアイデンティティの象徴であるとともに「人類」という種族の自然への介在の痕跡でもあります。

しかし痕跡はそのルーツや源流、本来の目的を辿って行こうとしても解明かせない迷路のようなもの。この作品は私達が切り崩してきたけれども、それでも強く生きようとする自然との関係性もテーマにしつつ、人類が探し求めた見えない目的を体験する作品であり、私達の新たな出発点について考えてもらう作品です。 企画協力：ArtTank (小平悦子 + 近藤俊郎)

A2 インスタレーション Heading

後藤 映則

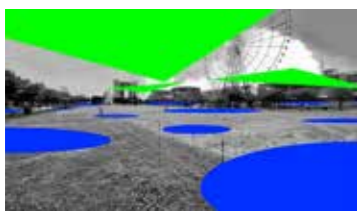


人の背よりも高い白いオブジェは、よく見ると人体の形状を模している。「歩く」という人々にとって根源的な動作が回転によって立ち現れ、この大きな人は「どこか」へ向かって歩き続けている。これらの作品の原型は、パンデミックによって物理的な移動が困難になり、作者自身も制約を受けたなかで、人間は移動する生き物であること、動き続ける存在であることを改めて実感したことから生まれた。作品の台座は方位を表すクロックポジションの形をしており、混沌としたこの時代において、人々はどこを歩いているのか、どこへ向かおうとしているのか、その選択肢を示そうとしている。

また、周囲には作者が訪れた世界各国の交差点で撮影した歩く人々が閉じ込められた、小さな箱型の作品が点在しており、彼らも同じように、どこかに向かっている。その先で何が起こるかを前もって知ることはできないが、人は前へと歩く。多くの人が行き交う臨海副都心に情景を重ねながら、歩く人々の姿が浮かび上がる。

A3 インスタレーション Territory Gone Wild 野生のテリトリー

ULTRA STUDIO



夢の広場は芝生に覆われ、1kmのシンボルプロムナードが続く。初めて広場を訪れたとき、芝の一部は囲われ、散水養生をする作業員のほかに人影はなかった。その光景は時折公園で目にする「入れない芝生」を思い出させる。駅から来る人々はどこかを指して広場を迂回した。広場の周りの看板や植え込み、銅像なども、囲いと相まって入りづらさを作っているのだろうか。囲いは場所を二分し、内側を切り離して意味を変えてしまう。その特徴をひっくり返すことで、広場に新しい領域を生み出せないだろうか。

5月らしからぬ強い日差しの下、長大なプロムナードを歩くと、灯台のような街灯、目を浴びるベンチ、控えめな散歩コースのサインなど、孤立したオブジェ群と遭遇した。それらも囲ってしまえば、違う意味が生まれるのではないか。唐突に出会う変化したオブジェ群が、プロムナードを繋ぐ領域を作るだろう。この臨海副都心に野生のテリトリーが出現する。

A4 ウォールアート 臨海副都心ユニバース

高橋 信雅



2021年10~11月、高橋信雅が「ARTBAY HOUSE」の壁面に描いたのは、ベリーや江川太郎左衛門英龍、街並みに動物、宇宙人やロボット、馴染みのあるものから浮世のものまで、古今未来の臨海副都心と、旅立ちの日の出。建築家の萬代基介氏が8つのキューブをコンセプトに設計した「ARTBAY HOUSE」が解体され、8つの板(モノリス)となり宇宙へ飛び立つ瞬間を描きました。今回の作品は「古今未来臨海副都心」のアフターストーリーとして、飛び立った8つの「モノリス」が遥か宇宙の彼方で「空白」を彷徨いながら想いは街のカタチを留め、再び結合する時を待っている姿を描きます。



1 ダニエル・ビュラン 25のポルティコ -色彩と反映	2 樋口正一郎 ねじりはちまき	3 福田繁雄 あ-ん	4 杉山惣二 '96 美神の門	5 マルク・クチュリエ 自由の炎	6 内田晴之 ROUND STRUCTURE 1995	7 高橋史門 重力の無い社
8 眞板雅文 碧空の花	9 福田繁雄 潮風公園 (シーブリーズパーク) 島の日曜日の午後	10 クレス・オルデンバーグ Saw, Sawing (切っている鏡)	11 長沢英俊 七つの泉	12 Lee Ufan 頂	13 笠原恵子 UNTITLED -Three type #3	パブリックアート 臨海副都心エリアには世界的なアーティストによるパブリックアートがたくさんあります。屋外にある作品はいつでも誰でも鑑賞できます。

Program

P1 インスタレーション City Echo

吉添 裕人

お台場が見渡せる下町に暮らしていた作者が心の中で感じた、夜景の光が作り出す「都市のやまびこ」。この作品は作者の子供の頃の遊び、原風景の再現そのものであり、思い込みから派生する、都市と観客をつなげる装置のようなものです。

開催日：9月24日(土) 18:00~20:00 予定
*強風および荒天等の場合は、翌25日(日)に順延



P2 ワークショップ 事前予約制 おもいつきの声と色

小島 聖+平松 麻

思いついたものを心に留め、声と色をのせて形を変化させていく時間はワクワクがいっぱいです。出来上がったまでの過程が何より大切な時間。ときにひとり、ときにふたりで、ときにみんなで、こどももおとなも一緒に。小島聖と平松麻が始めた声と色の実験室。この場所で語られる声や色を聞いて、そこから感じる世界を一人一人が自由に描き、世界でたったひとつの紙芝居が完成します。 *予約詳細はウェブサイトをご覧ください。



P3 ワークショップ 事前予約制 パブリックアートxトートバッグ

臨海副都心エリアのパブリックアートの形・色をモチーフにしたスタンプでつくる缶バッチ、色とりどりの紐を組み合わせてオリジナルデザインのバッグチャームを創ります。出来上がったチャームと一緒にオーバースケールトートバッグもプレゼント。 *予約詳細はウェブサイトをご覧ください。



P4 ワークショップ 事前予約制 & 試乗体験 ART JINRIKISHA

乗り物の原点・人力車をワークショップの作品で彩り、時代を超えた「ART JINRIKISHA」を生み出します。廃材やリユース素材などの材料をつかって、参加者の発想やアイデアで羽のアートをつくり、人力車を装飾します。完成後は屋外で試乗体験ができます。実施場所：乃村工務社(ワークショップ)/夢の広場(試乗体験) *予約詳細はウェブサイトをご覧ください。



P6 ストリートピアノ/ SOUND OF YOU

どなたでも自由に弾いていただけるストリートピアノがアクアシティお台場に登場します。

実施場所：アクアシティお台場 3F Air BicCamera 前広場



P7 ARアート体験 TOKYO STATION AR ART PROJECT revival for ARTBAY TOKYO

山手線を起点に、心豊かな都市生活空間の創造を目指し、食や農、アートなど様々なプロジェクトを進めるJR 東日本 東京感動線。2020年11月に東京駅で実施した「TOKYO STATION AR ART PROJECT」が臨海副都心エリアにリヴァイバルし、NEW SCALE な風景を生み出します。(コンテンツデザイナー：中田拓馬、山岸遥/コンテンツ協賛：JR 東日本/企画協力：KDDI、SoVeC)



P8-1 プロジェクションマッピング 東京ビッグサイト

9月16日(金)・25日(日) 18:30頃~19:00頃

P8-2 SYNAPSE -街をつなぐものがたり-

乃村工務社の社屋全体が巨大な SYNAPSE となり様々な表情を創り出します。それは「人と人」「人と街」「人と社会」が「つながる事」の大切さを伝えるメッセージです。9月16日(金)~25日(日) 各日 18:30頃~21:00頃 *17日(土)・18日(日)・25日(日)のみ 20:00 頃終了



P5 アート鑑賞ツアー 事前予約制 3つのインクルージョン鑑賞プログラム

会場に来られない人もアート鑑賞に向かう機会を持っていない人も、誰もが参加できる鑑賞プログラム。 *予約詳細はウェブサイトをご覧ください。

P5-1 分身ロボットOriHimeとめぐるツアー

コミュニケーターが現地の会場をめぐり、分身ロボット OriHime を通じてオンラインで映像をお届けします。なかなか外出できない方々に遠隔でアートの魅力をお伝えします。



P5-2 ベビーと一緒にめぐるツアー

小さなお子様と一緒にアートに触れる機会を。ご家族単位で参加いただけるツアーです。



P5-3 見えない人も見える人も一緒にめぐるツアー

目の見えない人も、見える人も参加できる対話しながら「みること」を考えるツアーです。



© 中島 祐輔